



勉強に効率は必要か

塾生や保護者のみなさんから「どうやったら効率的な勉強ができるようになりますか」という質問を受けることがあります。確かに効率の悪い、時間を有効に使っていない勉強をしている人もいます。マーカーを何色も使ってカラフルなノートに仕上げることに時間をかけたり、教科書の太字の用語すべてを赤色マーカーで塗りそこを赤シートで隠してひたすら覚えようとしたりする人を見かけます。太字だけ覚えてもその用語の意味も一緒に理解しておかなければ効率が良いとはいえません。音楽を聴きながらの勉強も、外界の雑音からシャットアウトされて集中できるという人もいれば、私のように歌詞のある好きな音楽だつとついそちらに聞き入ってしまう、考えることも手を動かすことも止まってしまうという人も多いのではないのでしょうか。

さて効率の悪い勉強のしかたを改善していくのはもちろん必要ですが、それを狭く考えてしまうと「こなすだけの勉強」に慣れてしまい、考え抜く地力が付かないことが心配です。効率と学習効果は分けて考えなくてはなりません。本当の学力を得るための広い意味での探究学習とは区別して、ここではテストで高得点を取るための最も効果的な学習方法を考えてみましょう。ズバリ言えば「テストを作る人のねらいが読める」ことです。これは定期テストでも入試でも同じです。作問者は誰が受けるテストなのか、何をどこまで理解しているかをどんな問題にすれば確かめられるのかを考えて問題を作ります。ひっかけ問題ばかりを作ることもありません。ただし、当てずっぽうで正解できたり、一夜漬けの暗記だけで対応できるような問題は避けます。また正答率が高い問題と深い理解が必要な応用問題との難易度のバランスも考えます。それらの作問者のねらいを考えて自分は次のテストでどれくらいの点数を取りたいのかを決めます。そしてまず出題されそうで正解できそうな基本問題を固めてから、やや苦手だけど解けるかもしれない問題の準備をします。テストでの高得点には戦略も大切なのです。